

(赤ちゃん登場)



わたし秋元恭子です。(立岩)

# はじめての「赤ちゃん登場」



昭和57年1月に連載が開始した「赤ちゃん登場」は、その後「こんにちは赤ちゃん」となり、今でも人気のコーナーです。当時の記録をたどり、はじめて「赤ちゃん登場」に掲載された方を訪ねました。

「赤ちゃん登場」第1号は、立岩にお住まいの秋元一郎さん・マツさん夫妻の長女、恭子さんです。当時の広報紙をお見せすると、家にずっと保存してあり、物心ついてからも見ていたことや他の号に同級生が出ていたことを覚えている、と恭子さんは話してくれました。写真は旧母子センターで開催された母親学級の際に撮影されたもの。「抱っこしてるの私です。覚えてます。」と、マツさんも笑顔で教えてくれました。一郎さんは長距離走が得意で、黒田原走友会に所属していたそうです。同号で結成2年目の黒田原走友会が取り上げられている記事を見つけると、当時のことを懐かしそうに振り返っていました。



恭子さんは現在都内にお住まいですが、帰省に合わせて、取材を快く受けてくださいました。ご協力ありがとうございました。

## わたしと広報

広報「那須」について感想やエピソードはありますか？  
町のみなさんの声を聞きました。



白石理恵さん(秋山沢)  
息子 幹弥くん

いつも町のイベントなど何があるのか楽しみに情報を見ています。子どものイベントは特にチェック！です。



高久美加さん(漆塚下)

子どもたちや地域のために色んなイベントに参加して楽しみたいと思っています。そういう活動を取材してほしいです。



高橋賢斗くん(新町上)  
父 勝彦さん・弟 篤くん

家でときどき読みます。写真で知っている人を見つくと、心がほっとした気持ちになります。

## 広報「那須」に思いを寄せて

副町長 山田 正美

私は昭和50年に役場に入庁し、昭和55年4月から4年間、広報紙の担当をしました。当時はすべての原稿を手書きで起こし入稿していたので、毎月締切りに追われていたことを思い出します。「赤ちゃん登場」を立ち上げた当時のことは深く印象に残っています。上司から反対される中やっとスタートにこぎつけたコーナーで、掲載できた嬉しさは今でも忘れられません。広報「那須」には、歴代担当者の苦勞と達成感も詰まっているのです。

広報は広聴とセットの言葉だと考えます。町民のみなさんの声をよく聴き、町政に反映させる使命が広報紙にはあります。この700号発行を契機に、町民のみなさんの声や写真を一人でも多く掲載し、これまで以上に「親しまれ、読まれる」広報紙を発行していくことを、町民のみなさんにお約束します。そのためには、みなさんの貴重なご意見が欠かせません。広報紙のことや町政のことでご意見がありましたら、いつでもお聞かせください。

■問合せ 総務課 広報広聴係 ☎ 72-6901